

英語のホームページも恐くない？

## 【最新・英文翻訳ソフト】

インターネットのWWWの世界では、悲しいかな標準語は英語。母国語で情報を発信していても、世界中のネットサーファーに見てもらうためには英語のページも用意しておくのが常識だ。そんなわけで、ある程度の英語力がないと、話題のホームページに行きついたとしても、絵だけがなくて帰ってくる、ということになりかねない。今回はそんなインターネットピープルを強力に支援してくれる英文翻訳ソフトを紹介する。

ひろのただとし  
広野 忠敏

NetSurfer/ej 英日翻訳アダプタ for Internet

Transpad for Windows J・London/EJ

ザ・国際人トランスサポーター LogoVista E to J Dr. SURF

## はじめに

Web ブラウザーを使ってネットサーフィンしようとするときに、多くの利用者が苦い思いをするのが、「英語」のテキストだ。インターネット上にある海外の情報は、そのほとんどが英文で書かれている。ネイティブスピーカーなみに英語に自信のある人は別としても、日常生活でほとんど英語を使うことのないわれわれ普通の人間にとっでは、想像以上に厄介なものである。

そんなユーザーのためのツールとして、翻訳ソフトと呼ばれる一連のアプリケーションが最近注目を集めている。翻訳ソフトそのものは、ワークステーションや汎用コンピュータの世界ではかなり以前から研究が

進められており、製品化されているものもあった。その中のいくつかはパソコンでも動作するが、価格も高く、個人に手の届くものではなかった。ところが最近では、かなり低価格の翻訳ソフトが数多くリリースされてきている。そこで実際にいくつかのソフトを試用して、どの程度使いものになるのか、また、使いこなすためのポイントなどを検証してみた。

ただし、翻訳ソフトを使えばどのような英文でも美しく自然な日本語に翻訳してくれるわけではない、ということをお断りしておきたい。翻訳ソフトは、あくまでも英文を読むためのサポートツールとして使用するのが正しい利用法だからだ。

## 翻訳ソフトの種類

さて、翻訳ソフトは「スタンドアロン型」と「サーバー型」の2つの方式に分類することができる。

スタンドアロン型は、文字どおりパソコン本体に翻訳ソフトをインストールして使うもの。このスタンドアロンの翻訳ソフトには、テキストファイルやクリップボードの英文テキストを読み込んで翻訳するタイプのものや、NetscapeなどのWeb ブラウザーと連動して、ブラウザーに表示された英文テキストをワンタッチで翻訳できるものなどがある。テキストファイルから翻訳するタイプのもは従来の製品に多く見られる。また、ブラウザーとリンクするタイプのもの

翻訳ソフトウェア

は、インターネットの利用者の増加とともに、最近の翻訳ソフトに多く見られるようになってきている。

一方のサーバー型は、翻訳ソフトをワークステーションに置くもので、そのワーク

ステーションの利用者が自分の端末から翻訳ソフトを利用するというもの。このサーバー型なら、一度にたくさんの人が利用することができるのだが、ソフトウェアの値段が高めでUNIXマシンを使うことから、コストは

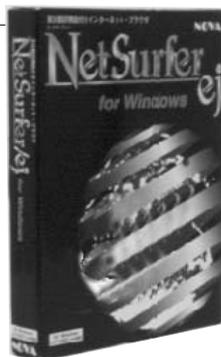
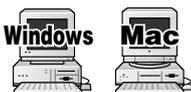
スタンドアロン型に比べてかなり高くなる。

ここでは著者が評価した7種類のスタンドアロン型翻訳ソフト(🔍マーク)と、試用するチャンスがなかった3つの製品を紹介していくことにする。

# NetSurfer/ej 🔍

## Netscapeとリンクした高速翻訳が特長

動作環境 : Windows, Macintosh  
 販売元 : ノヴァ  
 問い合わせ先 : 03-3351-3356  
 税別定価 : 29,800円  
 ブラウザーの対応 : ( Netscape 1.1 )  
 基本辞書 : 約7万語



「NetSurfer/ej」は現在最もポピュラーなWebブラウザとなっているNetscapeと完全にリンクした翻訳ソフトである。「NetSurfer/ej」Netscapeの順で起動した後、「翻訳ボタン」を押すと、ブラウザに表示されたページのテキスト部分だけを日本語に翻訳してくれる(図1)。設定を変えれば、オリジナルの英文ページはそのままにして、翻訳後の日本語ページを別

に開いたウィンドウに表示することもできる。さらに、ブラウザに表示された英文を選んで、「対訳ボタン」を押すだけで対訳ウィンドウに訳文を表示することができる(図2)。対訳

ウィンドウは、左側に英文、右側に翻訳後の文章が表示されるため、英語と日本語の比較がしやすい。この対訳ウィンドウでは、ブラウザに表示された英文以外に、他の英文テキストファイルやクリップボードのテキストを読み込んで翻訳をすることができる。ウィンドウ内の単語(英単語と翻訳された日本語)をクリックすると和訳の候補が表示され、ここで選択された単語は次回の翻訳時に優先して表示されるようになる。

「NetSurfer/ej」の基本辞書は約7万語、さらにユーザー辞書を10万語まで拡張することが

できる。複数のユーザー辞書を持てるので、分野ごとに辞書を分けることも可能だ。

ところでこの種のソフトで気になるのが翻訳速度だが、これはかなり高速に処理することが可能だ。また、ブラウザや対訳ウィンドウに表示された英文は、単語だけをワンタッチで辞書引きできるので、一括翻訳以外にも、英単語だけを訳して拾い読みする方法もある。どちらかといえば「NetSurfer/ej」はある程度英文が読める人が、ブラウザを使ってページを速読するためのサポートツールとして使うのが最も効率のよい利用法だといえるだろう。

なお、「NetSurfer/ej」には日本語版のNetscape 1.1[ja]が標準でバンドルされている。このブラウザではページの一括翻訳や別ページを表示しての一括翻訳などすべての機能を使うことができるが、32bit版のNetscapeではこれらの機能を使うことができないので注意してほしい。

<http://www.nova.co.jp/products/nsurf.html>に本ソフトの関連情報がある。



図1: NetSurfer/ejによる翻訳画面

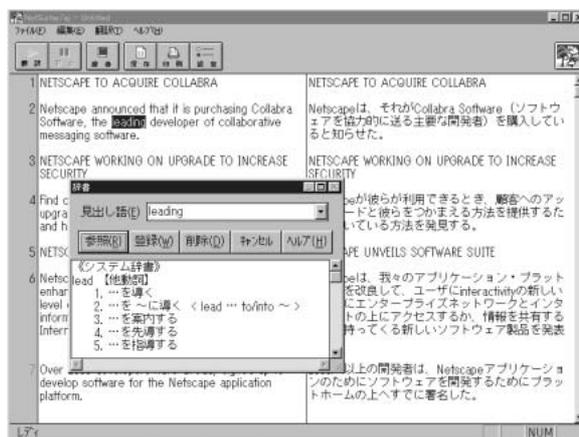
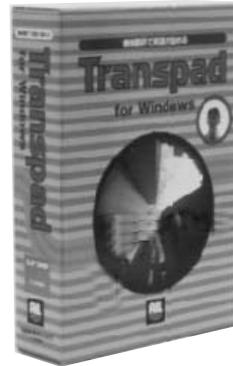


図2: 対訳モードで辞書機能を使う

# Transpad for Windows

## 翻訳の速度を重視。Netscape 上で快適動作

動作環境 : Windows  
 販売元 : 亀島産業(株)  
 問い合わせ先 : 03-3798-4838  
 税別定価 : 14,800円  
 ブラウザーの対応 : (Netscape 1.1)  
 基本辞書 :



「Transpad for Windows」(以下「トランスパッド」)は同社の翻訳ソフトであるE・JBankの翻訳エンジンのノウハウを活かしたナメ読みのための翻訳ソフトだ。「トランスパッド」の最大のポイントは翻訳速度の速さにある。カタログスペックによるとペンティアム90MHz使用時には1時間に20万語以上の翻訳速度が得られるとある。実際に486DX-66MHzのマシンにインストールして使ってみたが、ストレスなくサクサク翻訳してくれるのは快感ささ覚える。このように、「トランスパッド」では極めて高速な翻訳ができるが、そのために翻訳精度がやや犠牲になっている。これはもともと「ト

ランスパッド」では翻訳の完成度よりも翻訳速度を重視した作りになっているため、しかたがないことだろう。「トランスパッド」を使うときは、英文を翻訳するのではなく、英文の骨格や単語の意味を変換する。つまり、ナメ読みをするために使うツールであるという認識の上で使うべきだ。

ところで、「トランスパッド」にはWebMTと呼ばれるツールが付属している。このツールはWebブラウザと「トランスパッド」の橋渡しをするツールで、ブラウザに表示された英文を一気に翻訳して、翻訳結果をブラウザの新しいウィンドウに表示してくれる(図3)。

WebMTを使った翻訳には「トランスパッド」の翻訳エンジンが使われるため、かなり高速にブラウザのページを翻訳することが可能だ。なお、WebMTが対応しているブラウザはいまのところNetscape だけだが、今後は他のブラウザにも対応する予定だという。また、WebMTは16bit、32bitそれぞれのバージョンもあるため、16bit、32bitどちらのNetscapeでも利用することができる。ちなみに、Windows95では16bit、32bit両方のWebMTとNetscape1.2Nを使って問題なく動作したことを付け加えておく。



図3：トランスパッドによる翻訳結果

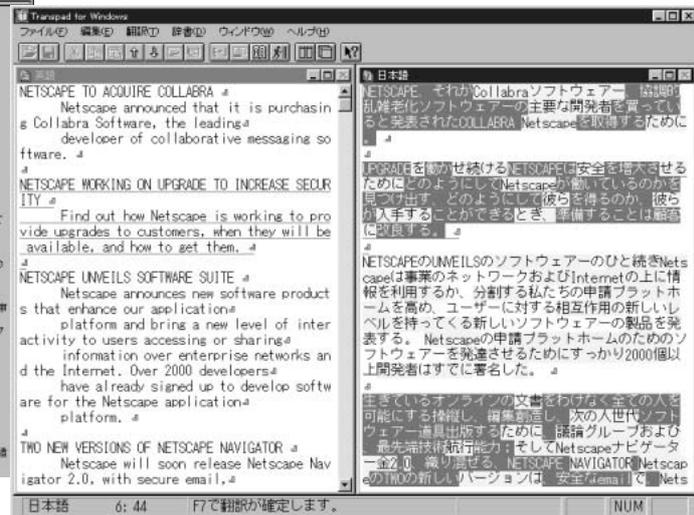


図4：他の翻訳候補がある部分は色がついて表示される

翻訳ソフトウェア

# J・London/EJ

## 速度と精度のバランスがとれた翻訳ソフト

動作環境 : Windows  
 販売元 : 協高電社  
 問い合わせ先 : 06-628-2882  
 税別定価 : 98,000円  
 ブラウザーの対応 : x  
 基本辞書 : 約8万語 / 31分野の専門用語辞書(オプション)



う。なお、「J・London/EJ」にはビジネス、科学一般などの31分野におよぶ専門用語辞書がオプションで用意されているため、翻訳する英文のスタイルに合わせて、使用する専門用語辞書を切り替えるようにすれば、かなり良好な翻訳結果を期待できると思われる。

また、「J・London/EJ」にはJ・Worldnetと呼ばれる通信ソフトが付属している。この通信ソフトからは「J・London/EJ」の翻訳機能をダイレクトに使うことができるため、通信をしながらデータベースなどの英文テキストを翻訳することも可能だ。ただし、この通信ソフトはTCP/IPには対応していないため、一般のパソコン通信ソフトと同様にモデムを使ってホストに直接ダイヤルして使う必要がある。

高電社の「J・London/EJ」は約8万語の基本辞書を搭載したスタンドアロン型の翻訳ソフトだ。基本的に英文テキストファイルを読み込んで、それを翻訳するというスタイルの翻訳ソフトだ。さらに、クリップボードからテキストをペーストして、それを翻訳することもできる。ただし、複数の文章を一度にペーストすると一文として認識されてしまうのが少々気になった。そのためWebブラウザと併用してクリップボードを使って翻訳するときは少々手間がかかるだろう。実際に使うときは、テキストを一気にダウンロードしておき、それを後で翻訳するのが正しい使い方だといえるかもしれない。

翻訳結果は原文と翻訳文が一対一に対応した対訳ウィンドウに表示される(図5)。ここでは、単語

(原文・翻訳文)をクリックして別の意味に変えたり、定型文などをあらかじめパターン登録したりすることによって翻訳精度を高めることも可能だ(図6)。

翻訳速度、翻訳性能は今回レビューしたソフトの中でも中程度。翻訳速度と翻訳精度のバランスが最も良い翻訳ソフトだといえるだ

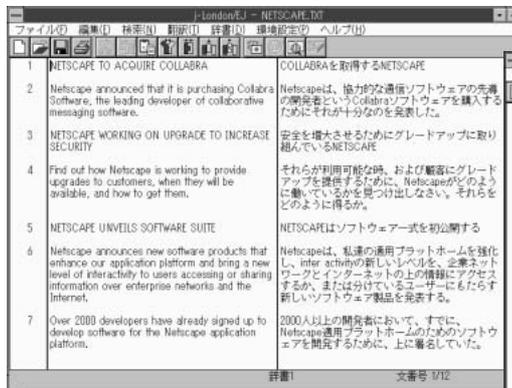


図5: J・Londonの対訳ウィンドウ



図6: 訳語の候補を表示させて学習させることも可能

製品紹介

## WWWサーバーモデル

### PENSEE for Internet

「PENSEE for Internet」は、SPARK Station 2以上、日本語Solaris 1.X以上で動作するサーバー型翻訳ソフト。Proxyサーバーを「PENSEE for Internet」が動作するマシンに設定すれば、Windows、Macintosh、UNIX対応のすべてのWWWブラウザから利用できる。



翻訳エンジンには、同社の定評あるWindows版翻訳ソフト「PENSEE for Windows」と同等のものを使用。A4サイズ1枚あたり約1分で翻訳するという。基本辞書は15万語。オプションで9種類の専門辞書が用意されている。

「PENSEE for Internet」はネットサーフィ

ンの効率化を目的に開発されたもので、対訳エディターなどのツールは付属していない。そのため、日本語訳を後から編集することはできない。

販売元 : 沖ソフトウエア(株)  
 価格 : 148,000円(サーバー1台分)  
 問い合わせ先 : 03-3454-7831

Windows95およびNT上で動作する「PENSEE for Internet」のパーソナル版が11月から出荷される予定。価格は9,800円。

翻訳ソフトウェア

# ザ・国際人トランスサポーター

## ワード上で英語の文章を翻訳

動作環境 : Windows  
 販売元 : 三洋インフォメーションビジネス(株)  
 問い合わせ先 : 06-443-5144,03-3836-9048,052-551-3434  
 税別定価 : 25,000円  
 ブラウザーの対応 : x  
 基本辞書 : 8万語 / 4分野の専門辞書(オプション)



人、ブラウザを一度に起動しなければならないのでかなりつらい。そのため、Webのページを一度英文のテキストファイルとして保存してから「国際人」を使って和訳するという使い方がベストだろう。



図7: マイクロソフトワード上で翻訳

ザ・国際人トランスサポーター(以下「国際人」)はワープロのマイクロソフトワード6.0の下で動作する翻訳ソフトだ。ワードで読み込むことができる文章ならば、どのような形式のものでも翻訳が可能で、英文のテキストを読み込んで翻訳したり、クリップボード経由で翻訳したりすることができる。

英文と翻訳語のテキストはワード上の別ウィンドウに表示される(図7)。文章を翻訳した後で「後編集」ダイアログを使って一文ずつ訳文の確認や修正を行う。このときに、原文を修正しての再翻訳や単語の意味の選択、新しい

単語の登録などをする(図8)。

翻訳のスピードもまずまず、翻訳文のクオリティーもこの価格帯の翻訳ソフトの中では満足できる。さらにオプションで用意されている電気・医学など4分野の辞書を併用すればさらにクオリティーの高い翻訳が可能だろう。

注意点はワードと共に使わなければ動作しないということ。これがこのソフトの利点でもあり欠点でもある。たとえば、英文テキストを翻訳して、それをきれいにレイアウトするのは簡単だ。ところがブラウザなどを使ってコピー&ペーストで翻訳をするときには、ワード、「国際



図8: 後編集で翻訳結果をブラッシュアップする

# 英日翻訳アダプタ for Internet

## アプリケーションを選ばない汎用タイプ

動作環境 : Windows  
 販売元 : NEC  
 問い合わせ先 : 03-3456-8343  
 税別定価 : 14,800円  
 ブラウザーの対応 : x  
 基本辞書 : 約9万語



「英日翻訳アダプタ for Internet」(以下「翻訳アダプタ」)は他のスタンドアロン型の翻訳ソフトとはやや異なり、英文テキストファイルを読み込んで翻訳を行うのではなく、他のソフトで表示されたテキストをマウスでドラッグ(選択)して、マウスを右クリックすると選択された文章が翻訳される。つまり、画面上で文章が

選択できさえすれば、どのようなアプリケーションの英文だろうと翻訳してくれる。これは、Webブラウザだけでなく、電子メールソフトやGopher、通信ソフトなど、いろいろなアプリケーションで活用できることを意味する。また、同じようにして選択した単語の辞書引きも可能だ。

訳文を表示するウィンドウでは、英単語や翻訳語の単語をクリックすることによって別の翻訳候補を選ぶこともできる。

翻訳や辞書引きのための操作はカスタマイズ可能だが、デフォルトでは翻訳が右クリック、辞書引きがファンクションキーに割り当てられている。

気になる性能だが、「翻訳アダプタ」は約9万語の辞書を搭載している。翻訳スピードもかなり高速だ。また、文字を選択してから翻訳あるいは辞書引きができるので、かなり快適に使うことができる。ただ、ファイルを読み込んでの一括翻訳ができないため、ナメ読みのためのツールと割り切って使う必要があるかもしれない。

翻訳ソフトウェア

# LogoVista E to J

## 翻訳速度とクオリティーを調節できる

動作環境 : Windows, Macintosh  
 販売元 : カテナ株  
 問い合わせ先 : 0423-38-1118  
 税別定価 : 97,000円  
 ブラウザーの対応 : x  
 基本辞書 : 約12万語 / 21分野の専門用語辞書(オプション)



ところで、今回の翻訳ソフトの中で最もクオリティーの高い翻訳結果が得られたのがこの「LogoVista」だ。ただし、今回取り上げたソフトの中で「LogoVista」は最も高い価格帯に属するため、この結果もきわめて妥当なところだろう。実際にこのソフトを使うときは、翻訳速度が他の翻訳ソフト

「LogoVista」はスタンドアロン型の翻訳ソフトで、英文テキストファイルやクリップボードの英文テキストを翻訳するスタイルを採用している。翻訳作業は他の翻訳ソフトと同様に、英文とそれに対応する翻訳文が表示される対訳ウィンドウで行われる(図9)。

また、訳語に別解釈があるときは、意味の違う別解釈を選択すると次回からはその結果が反映される学習機能を搭載しているのも面白い(図10)。「LogoVista」の基本辞書は約12万語。さらにオプションで科学、ビジネスなど21分野の専門用語辞書が用意されている。

に比べてやや遅いため、オンラインで一括翻訳をするという使い方こそできないが、特定の一文だけを翻訳したり、一度英文をテキストファイルにセーブして、後で翻訳作業を行うといったケースで実力を発揮するだろう。なお、本ソフトのデモ版(Windows対応)が本誌付録のCD-ROMに収録されている。

「LogoVista」の面白い点は、翻訳のスピードと訳語のクオリティーをユーザーが自由に設定できることだ。つまり、翻訳速度を高速に設定するとクオリティーの低い翻訳結果を、翻訳速度を遅くすれば逆にクオリティーの高い翻訳結果を得ることができる。たとえば、単語の意味だけを羅列してほしいときは翻訳速度を速くするといったように、ケースに応じた使い方を選ぶことができる。

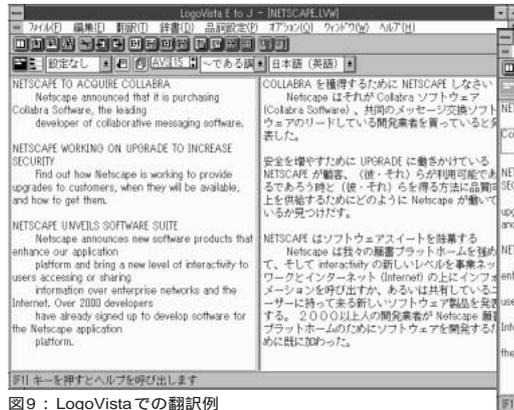


図9: LogoVistaでの翻訳例



図10: 別解釈の表示

製品紹介

### 超低価格で手軽に使える翻訳ソフト コヤ英和!



「コヤ英和! Ver.1.1」は、辞書感覚で使えるWindows対応の翻訳ソフト。同時に使うソフトを選ばず、画面上の英語をクリップボードにコピーするだけで自動的に翻訳される。

6.7万語の辞書は、オンライン辞書としても使うことができ、ユーザーが単語登録できる学習辞書も備えている。

別売りの日本語音声出力ソフト「ドキュ

メントーカVer.1.5」(希望小売価格9,800円、キャンペーン価格7,800円)と併用することで、翻訳の実行と同時に日本語を自動的に読み上げたり、辞書引きの結果や画面上で選択した文章を読み上げたりすることができるようになる(サウンドボードが必要)。  
 発売元: カテナ(株)・価格9,800円

製品紹介

### PowerPC対応のMacintosh版低価格翻訳ソフト The Translator-Mini



「The Translator-Mini」は、Macintosh対応翻訳ソフト。「The Translator-Mini Ver. 1.5」では、前バージョンから基本辞書の充実(2.5万語から6.7万語へ) 3.5万語のコンピュータ用語辞書と3.2万語の基礎科学用語辞書の追加、英文法解析の改善、PowerMacネイティブ対応などの機能が強化されている。

発売元: カテナ(株)・価格14,800円

翻訳ソフトウェア

# Dr. SURF

## Netscapeと連動する多機能ソフト

動作環境 : Windows  
 販売元 : ㈱メディアビジョン  
 問い合わせ先 : 03-3222-3908  
 税別定価 : 14,800円 (キャンペーン価格 12,800円)  
 ブラウザーの対応 : (Netscape 1.1)  
 基本辞書 : 約7万語 / 9分野の専門用語辞書 (オプション)



今回レビューした製品の中で最もインターネット上で便利に使うことができたのがこの「Dr. SURF」だ。このソフトはWebブラウザ (Netscape) と連携して使う上での数々の面白い機能を持っている。

Dr. SURFの翻訳モードは3つ。1つ目は「リアルタイム翻訳モード」と呼ばれるモードで、アクセスするサーバーの英文をリアルタイムで翻訳してブラウザに表示するモード (図11)。これはブラウザの設定でプロキシサーバーにDr. SURFの翻訳エンジンを指定することによって実現される。つまり、NetscapeでアクセスしたデータがすべてDr. SURFを経由し、翻訳されてからブラウザに表示されるというメカニズムになっている。ユーザーはブラウザと

サーバーの間にDr. SURFが入っていることを意識せずに翻訳後のテキストを参照することができる。なお、翻訳結果は英文すべてをまとめて日本語に置換するのではなく、1行の英文の後に翻訳された日本語が1行挿入されるため、原文と翻訳結果の対応がつかみやすい。

2つ目の翻訳モードは「キャッシュ翻訳モード」。Netscapeでは、サーバーにアクセスすると、そのデータはディスクにキャッシュされる。Dr. SURFはこのキャッシュデータを読み込んでキャッシュ内の英文を日本語に翻訳することができる。たとえば、翻訳したいデータをNetscapeでアクセスし、キャッシュにためてからいったん回線を切断し、Dr. SURFでゆっくり翻訳するという使い方ができる (図12)。

3つ目の翻訳モードは通常の翻訳ソフトと同様に英文テキストを読み込んで、それを翻訳する「テキスト翻訳モード」。これは他のソフトと同じように対訳ウィンドウに英文と翻訳後のテキストが表示される (図13)。

このほかにもクリップボードにある英単語を辞書引きする機能など、ブラウザを使って英文を読むための便利な機能が組み込まれている。

実際にリアルタイム翻訳を試してみたところ、ものによっては翻訳にやや時間がかかるケースもあったが、結果的に満足できる速度だった。また、キャッシュ翻訳モードは翻訳を目的とせずにとりあえず読みたいサーバーに次々にアクセスしてからあとでゆっくり読むというときに利用価値がある。

なお、Dr. SURFには機能限定されたフリーソフト版 Dr. SURF Jr. がNIFTY-ServeのFINETのソフトウェアライブラリにアップロードされている (FRSRF010.LZH・6MB) ほか、本誌付録CD-ROMにも収録されている。これを試用してから製品版を購入することができるのも嬉しい配慮だ。

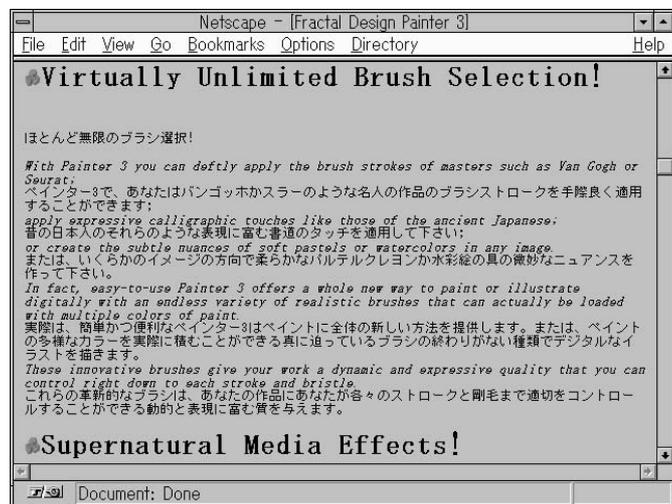


図11 : リアルタイム翻訳モード

図12 : キャッシュ翻訳モード  
 キャッシュに保存されたWebページを選んで翻訳する

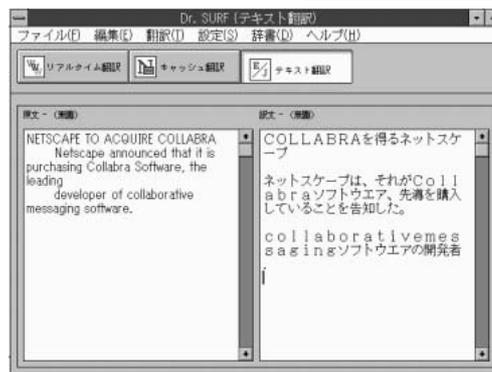
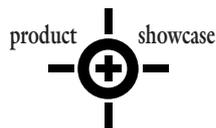


図13 : テキスト翻訳モード



## 翻訳ソフトウェア

### まとめ

ひとくちに翻訳ソフトといっても、速度の速いものから翻訳精度は高いがその価格も高いというものまで、さまざまなタイプがある。これらの翻訳ソフトのうちどれを選ぶかだが、価格や搭載されている基本辞書の単語数などのカタログスペックに目を向けるよりは、自分の使用目的に合ったソフトを慎重に選ぶことが大切だ。たとえば、翻訳精度よりもそのスピードが大事なのに、精度重視の大型ソフトを選んだり、英文の知識がまったくないのにナメ読みをするためのソフトを選んだりすることだけは避けたい。また、操作性も重要な要素の1つだ。操作体系が自分のスタイルに合わないソフトは、いくら高性能だったとしても使いづらいものになってしまうだろう。

### 自分に必要な機能をチェック

それでは、具体的にどのソフトを選べばよいのだろうか。企業ユーザーなどサーバー環境が整っていて、大人数で翻訳ソフトを使うニーズがあるならば、スタンドアロン型よりは「PENSEE」のようなサーバー型ソフトのほうがなにかと便利だ。また、使用目的がナメ読みの翻訳をすることで、とりあえず単語の意味さえわかればよいというならば、重要なのはその速度。インターネットに接続してオンラインで使うのであれば、流れるように単語を訳してくれないと電話代だけがかさむ悲しい結果になってしまう。「トランスパッド」に代表される翻訳速度を重視したソフトはそのニーズに十二分に応えてくれるはずだ。英文を読みこなす際には簡単に辞書引きできるのも重要な要素になってくる。「日英翻訳アダプタ」や「Netsurfer/ej」などはこの要素を満たしてくれる。英文の大意をつかむことができさえすれば、わからない単語だけを

拾って訳すことができる。英文のテキストすべてを翻訳ソフトで翻訳させるよりは、はるかに効率がよい。この方法を採用する場合、わざわざテキスト化してから翻訳ソフトで処理する必要のない、ブラウザと密接にリンクしたソフトを選ぶのも1つの手だ。「Dr. SURF」はそういった快適さを求めるユーザーにはうってつけかもしれない。

逆に詳しい内容の翻訳文を必要としている人や、ダウンロードしたデータをテキスト化したあとにゆっくり読む余裕のある人には「LogoVista」の翻訳精度の高さが使いやすいさにつながるだろう。ただし本格的な訳文の作成にはそれなりの前処理(スベ

これらの翻訳ソフトは、自分なりにカスタマイズしたりユーザー辞書を鍛えたりすれば、「鬼に金棒」とまではいかないが、少なくともユーザーのがんばり次第ですばらしい働きをしてくれる、まことにありがたいソフトではある。それを使いこなせるかどうかは、ユーザーの技量ひとつだといえるだろう。まさにハサミと翻訳ソフトは使いようなのである。

### 高性能が進む翻訳ソフト

ところで、今後もこの手のソフトではパソコンのマシンパワーの増大とともに、翻

ルチェック、文章の分割など)と後処理(訳文チェックと別解釈の検討など)は決して怠ってはならない。この処理いかんで訳文の質がまるで変わってしまうのだ。

### よい翻訳にはよい辞書が決め手

どのソフトについても言えることだが、付属の辞書に加えて自分なりの辞書を構築していくことで、より自然な日本語に翻訳することができる。専門用語の登録だけでなく訳文のパターンが登録できるソフトもあるので、そういった機能を最大限に活用してほしい。また、たいいていの翻訳ソフトでは、さまざまな分野の辞書をオプションで用意している。翻訳ソフトをこのような専門分野別の辞書で武装すれば、さらに快適に使うことができるはずだ。

訳のスピードがますますアップし、翻訳性能も向上していくに違いない。「Dr. SURF」のようなインターネット専用翻訳ソフトも数多く製品化され、その内容も英語に限らずヨーロッパ各地の言語に加え、中国語などのアジア地域の言語への対応もそう遠い未来のことではないかもしれない。また、外国語を日本語に翻訳するソフトだけではなく、逆に日本語を外国語に翻訳するためのソフトもさらに充実していくだろう。

インターネット環境に限って言えば、スタンドアロン型のソフトだけではなく、サーバー型のソフトも今後は充実していくだろう。現在でも一部のサーバーでは翻訳をサービスしてくれるところがあるが、今後はこのようなサービスを行うサーバーも増えていくに違いない。

## [インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社**インプレスR&D**

All-in-One INTERNET magazine 編集部

[im-info@impress.co.jp](mailto:im-info@impress.co.jp)